



～ 仙台地域の復旧復興情報を発信！ ～

食事とともにたくさんのしあわせを～農家レストラン“おもてなし力”向上研修会開催～

【農業振興部：仙台農業普及改良センター】

仙台地域では、東日本大震災以降新たにオープンした3店舗を含め、現在6店舗の農家レストランが営業しています。農家レストランは、みやぎの豊かな食を楽しめる場所、まちとむらの交流拠点としてその役割が注目されています。

こうした状況を受け、2月3日、農家レストランの集客力アップと地域活性化の推進や交流人口の増加をねらいとして、ホテルメトロポリタン仙台を会場に同ホテルのレストラン支配人・三浦靖彦氏を講師に迎えて「農家レストラン“おもてなし力”研修会」を開催しました。研修会では、レストラン経営者や従業員から三浦氏に対し、日頃接客サービスの場面で迷いや不安を抱いている点について様々な質問が出されました。

「大事なことは、自分がお店で食事をする時にやって欲しいと思うサービスを提供することです」。

ホテルレストランでの多くの経験に裏打ちされた三浦氏のおもてなしの技術、そしておもてなしの心。今回学んだことを活かし、農家レストランがおいしい食事とともにたくさんのしあわせを運ぶお店になることを期待しています。



ホテルレストランのサービスに学ぶ

“おもてなし”の技術

被災地域の土地利用型農業のカギ・水稻直播技術研修会を開催しました

【農業振興部：亘理農業普及改良センター】

亘理農業改良普及センター(以下、亘理普及センター)管内では、沿岸部の被災地域を中心に生産組織や法人の大規模化が進んでいます。大規模な農業経営でカギとなる水稻直播(※1)の基本的な技術指導のため、亘理普及センターでは、1月21日、JA名取岩沼美田園支店を会場に、水稻直播技術研修会を開催しました。

始めに亘理普及センターから、水稻直播の種類や、移植栽培と比較して育苗の手間や資材を省略できること、一方で水管理や鳥害、雑草防除など導入する上でのリスクはあるものの、直播栽培が経営面積の拡大のためには重要な技術となっていくことを説明しました。

さらに古川農業試験場からは、水稻直播に取り組む上で大きな課題となる雑草の防除について、最新の農薬登録に関する情報を交えて雑草の種類ごとに丁寧な説明がされました。



研修会の様子

研修の参加者からは、津波の被害を受けた作付再開地域における施肥のポイントや大規模化に伴って水稻直播技術をどのように経営に取り入れていくかなど、それぞれの経営状況と照らし合わせての質問や要望が出され、参加者の関心の高さが伺えました。

亘理普及センターでは、来年度作付予定ほ場の土壌分析を実施するとともに、水稻直播に関する技術指導を継続し、水稻生育期間中の生育調査を実施して土地利用型生産組織の技術向上を支援していきます。

※1：稲の種もみを直接水田にまく栽培方法。

宮城のサケを育てるサケ稚魚の放流が始まりました

【水産漁港部】



河川へ稚魚を放流する様子

宮城県において、毎年秋から冬にふるさとの川をめざして帰ってくるサケ（シロザケ）は、沿岸漁業の主要な漁獲対象種の一つであり、はらこ飯に代表されるように本県の食文化には欠かせない重要な水産資源です。このサケ資源の維持増大を図るため、県内の各サケふ化場では、漁業者から放流経費などの支援を受けながら、ふ化放流事業を継続して行っています。

本年度のサケの沿岸来遊数(※1)は、平成23年に放流した稚魚が、東日本大震災の大津波の影響を受けて減少することが予想されましたが、震災以前の平成21年に放流したサケの回帰が多かったことから、昨年度

の139万尾を上回る240万尾となりました。仙台地方振興事務所管内では6ヶ所のふ化場でサケのふ化放流事業を行っています。本年度は、台風の影響などで採卵用のサケの捕獲に苦労しましたが、関係者の努力で計画した採卵数を達成し、その後の卵の管理や稚魚の飼育も順調に進みました。広瀬名取川漁業協同組合と白石川漁業協同組合の各サケふ化場では、2月14日に今期最初の稚魚の放流が行われ、5cm程に成長したサケ稚魚約40万尾が元気に川へ泳ぎ出しました。



放流したサケ稚魚

(右下は生まれた直後のサケ仔魚)

※1：沿岸の漁獲量と河川の採捕量を足したもの

地域一体となった復興へ向けて！津波被災周辺地域の農地整備を計画しています

【農業農村整備部】

2月7日、岩沼市西部地区(概ね JR 東北本線の西側の地域)において、地元農家や関係機関などで構成する「岩沼西部地区ほ場整備推進協議会」の設立総会が開催されました。

西部地区は、地盤が軟弱なため東日本大震災による地盤沈下が進んでいるほか、農地区画が小さいことや経営規模が零細な農家が多く担い手の高齢化が進んでいることから、地域農業の将来に不安を抱えていました。

昨年8月より県、市から各集落へ昨今の農業のあり方や農地整備事業に関する説明を行う中で「地域課題解決のためには農地整備事業が不可欠」との意見が多く出されたことから、事業実施に向けた準備会を立ち上げ検討を進めてきました。

今回の協議会設立は、岩沼市全体の農業復興を遂げるために、市内沿岸部の復興交付金による農地整備だけでなく、岩沼市内陸の西部地区でも農地整備事業により農地の大区画化や用排水路の整備を行い、担い手の育成を図ることとしています。

また、多賀城市においても農村の都市化が進み将来の担い手不足など地域農業を持続していく上での課題を抱えていましたが、その解決に向けて岩沼市と同様に農地整備事業を推進し、農業経営の大規模化と競争力のある農業の実現を図り、農業・農村の復興・再生の実現を目指すこととしています。

今後は、両市において事業実施に向けた個別の意向調査や地域の担い手の選定などを行い、平成27年度の事業採択に向けてさらに事業の詳細について検討を進めていき、県内沿岸地域で行われる復興交付金を活用した農地整備事業と併せ、岩沼西部地域や多賀城市のような周辺地域も一体的に農地整備を行うことで農業・農村の再構築を図ります。



「岩沼西部地区ほ場整備推進協議会」

設立総会の様子

多重防災機能の一翼を担う～仙台湾沿岸地域における海岸防災林の復旧状況について～

【林業振興部】



岩沼市相ノ釜地区での生育基盤造成(盛り土)工事, 左側に国交省で設置した海岸防潮堤を望む



仙台市荒浜地区の植栽完了箇所

仙台湾の七北田川河口以南から福島県境に連なる海岸防災林は、東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けました。この海岸防災林は国有林と民有林から構成されているため、復旧にあたり一体的な整備が必要であることから、国(林野庁)が民有林直轄治山事業により一括施工することとなり、平成23年10月から工事に着手しました。

工事は、根返り(※1)しにくい健全な根の発達を促すための生育基盤造成(盛り土)工事とそこにクロマツを主体に順次、植栽する工事で、概ね10年間での完了を予定しています。現在は、震災ガレキ置き場・処理施設と海岸前面部で計画されている防潮堤工事との調整が必要な箇所などを除き、31ヶ所で基盤造成工事に着手しています。

その内訳は、仙台市6ヶ所、名取市9ヶ所、岩沼市5ヶ所、亶理町4ヶ所、山元町7ヶ所であり、面積にして約127ha(対象面積1,092haの12%に相当)となっています。このうち、仙台市荒浜地区の2.9haについては、民間団体の協力を得ながら、松くい虫に強い「抵抗性クロマツ」(※2)を主体に植栽が完了しています。

植栽後、成林するのにも相当の時間を要しますが、関係機関との調整のほかに、地権者に対する工事説明や土地使用承諾など合意形成を図りながら、一日も早い復旧が進展するよう努めてまいります。

※1：樹木が根ごと倒れてしまうこと。被災前の海岸防災林は地下水位が高く、根の発達が十分でなかった。

※2：松くい虫被害地で生き残ったクロマツを基に、品種開発されたクロマツ

閉上ブランド「ふるさと小包」で全国へ販売中

【地方振興部】

東日本大震災で被災した名取市閉上地区の水産加工業者4社のこだわりの「閉上ブランド商品」が、東北・関東エリアの郵便局の「ふるさと小包」で2月3日から3月31日までの期間限定で販売されています。

商品は、株式会社佐々直の「手のひら蒲鉾詰め合わせ」、株式会社ささ圭の「福興手わざ蒲鉾詰め合わせ」、有限会社丸七佐藤水産の「レンジで簡単西京漬け詰め合わせ」、有限会社マルタ水産の「閉上産赤貝の塩漬け・オリーブオイル和えセット」の4品です。これは、名取市商工会による「特産品等販路開拓支援事業」の一環で、閉上ブランドの販路開拓を通じ大震災以前から名取の産業をけん引してきた閉上地区の水産加工業の再建を図り、「閉上から名取を元気にしたい」という思いから企画されたものです。

閉上ブランドを支える1社、マルタ水産では、震災から3年が経とうとしている現在も仮設工場で生産を行っていますが、代表取締役の相澤信幸氏は、生産量、品質とも「日本一」と自信を持つ閉上産赤貝の味を伝えるため、閉上さいかい市場の飲食店とも協力しながら赤貝商品を提供しているほか、新商品開発にも意欲的に取り組んでいます。

ふるさと小包にのせて全国へ閉上ブランドの魅力が広がり、今後の名取の復興の一助となっていくことが期待されます。

ふるさと小包は、各郵便局に設置された申込書で注文することができます。年度末のこの時期、皆さんもぜひ、お世話になった人への贈り物や、1年間頑張った自分へのごほうびとして、閉上ブランドをふるさと小包で注文してみてください！



閉上ブランドをPRするポスター

亶理・山元 伊達美味(だてうま)フェア【向春(こうしゅん)】を開催しました

【地方振興部】

2月3日～2月7日の5日間、宮城県庁1階ロビーにて、物産展「亶理・山元 伊達美味フェア【向春】」を開催しました。

フェアでは、亶理町の「せとや」「旬菜館」「みやぎのあられ」の3店舗が出店し、いちごジャムやホッキ飯、ゆべしなどバラエティ豊かな商品を販売したほか、亶理、山元両町の観光パンフレットの配布も行い、亶理・山元の魅力をPRしました。

フェア開催期間中は、多くの方が訪れ、連日完売する商品もあるほどにぎわっていました。

「伊達美味フェア【向春】」は終了しましたが、亶理・山元では観光農園によるいちご狩りが開催されているほか、これからの「早春」の季節ならではの美味しいものがたくさんありますので、皆さんもどうぞ現地へ足を運び、旬の味をお楽しみください。



多彩な商品が揃いました

おすすめイベント情報

■伊達なわたりまるごとフェア■

日時：3月9日(日) 午前9時30分～午後2時30分

場所：亶理町佐藤記念体育館 他

内容：亶理町の旬な地場産品や近隣市町村の特産品販売、いちごの無料試食や各種ステージアトラクションなど楽しい催しが盛り沢山の春の一大イベントです。

問 亶理町商工観光課 Tel：0223-34-0513

■竹駒神社初午大祭■

日時：3月12日(水)～18日(火)

場所：竹駒神社(岩沼市稲荷町1-1)

内容：古来より初午まいりは福まいりとされています。毎年旧暦2月の初午の日から7日間にわたり、五穀豊穡・商売繁盛・家内安全などを願って執り行われます。期間中の15日(土)には、お神輿が街をねり歩き、市指定文化財の「竹駒奴」による奴振りや稚児行列で賑わいます。

イベント：3月15日(土)神輿渡御

問 竹駒神社社務所 Tel：0223-22-2101

■万葉の森観察会■

日時：4月20日(日) 午前10時～正午

場所：昭和万葉の森(大衡村大衡字平林117)

内容：万葉集にゆかりの名の遊歩道や万葉歌碑などがあり、広い園内の草木や花をインストラクターの説明を受けながら散策できます。

問 昭和万葉の森管理事務所 Tel：022-345-4623

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所 地方振興部(担当: 鶴飼, 山本)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sdsgsin-e/> (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp (TEL) 022-275-9140